

# 韓国における砂礫帯を利用したコンブ林の造成試験

東成海洋開発株式会社 金 樹雅

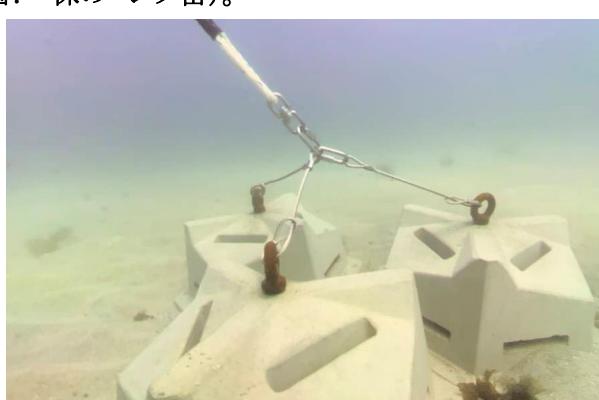


韓国では日本海に面した海面でコンブ養殖が行われている。

今回、コンブ林造成試験は、左図の赤い区域、韓国の東海岸、江原道の北部～中部あたりに位置している Gangwon-do(江原道)の沿岸の都市、Kang nung(江陵)での海岸海域で行われた。波浪少なく平坦な海底である。広い砂礫帯には海藻は繁茂していない。

そこで、コンブ養殖が行われてている栽苗場から、数10cm以上に成長したコンブ葉株を親ロープから切り、移送した。

下図に示すコンクリート基盤には、栄養剤の入った袋とプラスティック性のフロートを、長さ5～10mのロープに、コンブ養殖場海域から移送したコンブ種苗を一つのロープに1-3個体(水深により固着数替えた)を取り付けた(右図:一株のコンブ苗)。



砂礫地に設置したコンブ林コンクリート基盤



養殖ロープに着生した成長したマコンブ幼葉一つのコンブ株



コンブ林造成の作業(コンブ株は栄養剤を入れたフロートにコンブ株を取り付けてゆく

2～3か月で、下図のようなコンブ海中林となった。今年度は初年度であり、現在繁茂期までの経過であるが、マコンブは2年生であり、2年間は、このような景観が維持されると推察している。今まで、未利用であった砂礫帶にコンブ林が造成されればと画期的な垂直コンブ林造成の先駆けとなる。



水深5~10mの砂礫帯に隣接するコンブ林。水深によって 2~3 段の林層にした。